

行政視察等報告書

平成30年6月21日

境港市議会

議長 柗 康 弘 様

会派名 無所属

代表者 景 山

憲



下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

記

1 視察等期間	平成30年6月4日（月）～平成30年6月5日（火）
2 視察等先 及び内容	○平成30年6月4日（月） △視察先 香川県さぬき市 △視察内容 学校再編計画に基づく課題への取り組みについて 学校再編計画に至った経緯、統廃合に至る過程で、児童生徒、 保護者、地域に対する説明と理解、児童生徒へのケア、統廃合 後の施設の跡地利用について説明を受けた。 △さぬき市教育委員会 教育長、教育部長等から説明を受けた。 ○平成30年6月5日（火） △視察先 香川県三豊市 （株）エコマスター （バイオマス資源化センターみとよ） △視察内容 可燃性の一般廃棄物を生ごみなど有機性廃棄物が 発酵する原理を利用して、固形燃料原料にする施設「バイオ マス資源化センターみとよ」 △（株）エコマスター代表取締役 海田周治 氏 バイオマスセンター長 鎌倉秀行 氏から説明を受けた。
3 視察等議員	景 山 憲
4 総 経 費	合計（1名）31,880 円 （一人当たり31,880円） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 所 見 等	別紙のとおり

○さぬき市

△視察内容：さぬき市学校再編計画について

この視察内容は、本市の学校再編計画が進行していく過程で、児童生徒、住民、保護者、地域での説明会に関わる事項等について参考とすべく、今日までのさぬき市の取り組みと現況について視察したところである。

概略以下の通りであった。

さぬき市は、平成14年に周辺旧5町が合併し市となった。市内の児童・生徒数が激減したことから平成18年3月さぬき市学校再編計画（素案）を策定。

「学校再編計画地域協議会」を設置 主に少学校の再編に伴う当該計画対する要望、意見交換を計30回程度開催

「学校再編計画地域連絡協議会」を設置。主に中学校について要望、意見交換 4回開催

■計画策定に当たっての基本的な考え方

- ① 学校規模の適正化は、児童等にとって望ましい学習集団を形成し、より良い学習環境を創造するものであること。
- ② 計画内容は、地域の中での学校の役割や通学距離、通学路の安全確保に十分配慮し、保護者、地域の住民理解と協力を得られるものであること。
- ③ 施設整備に当たっては、防災上の安全性に配慮し、国際化・情報化等これからの時代に対応した新しい教育に対応できるものであること。
- ④ 計画の対象は、公立小・中学校及び幼稚園とすること。
に立って推進された。

■小学校の再編実施計画14校1分校を6校に統合する。

■中学校の再編実施計画6校を3項に統合する。

■統合後の利用計画 それぞれ地区の体育館などに活用し、地域に開放する。

概略以上のような説明を受けた。

△報告者：景山憲

△所見等：合併市での典型的な学校の再編である。費用面でも合併特例債を活用するものであり財政面では有利であった。学校の統廃合では、同時に小中一貫校を指向する自治体が多いが、当該市では、教育長の考え方からこれまでの小中の枠を踏襲するものであり一つの見解であるものと考える。

○バイオマス資源化センターみとよ

△視察内容

三豊市の一般廃棄物の処理委託業者である、(株)エコマスターの業務の内容について視察した。

可燃ごみを焼却することなく再資源化ができ、処理と脱臭の両方にバイオ（微生物）を活用した、日本初のリサイクル技術であるトンネルコンポスト方式を稼働さ

せている施設であり、三豊市内の家庭系と事業系の可燃ごみを20年間、年約1万トン进行处理。1トン当たり、24800円の処理費用で受け入れている。

この施設の特徴は、可燃ごみを一切焼却しない。さらに、処理した物はすべて再現として燃料化を行う。という点が大きな特徴である。さらには、純然たる民間企業として投資を行い、三豊市との間に20年間の処理業務委託契約を締結しているものである。

ゴミの処理過程では、バイオ技術によって一切焼却なく大方再資源化ができてい
る。ゴミ分類し、プラスチック類や紙くずは固形燃料として取り出す。発酵熱を使
うため化石燃料は不要。周期は木質チップを敷き詰めたバイオフィルターで吸引し
て脱臭。ゴミの搬入からの一連の工程の説明を受けた。

△所見：この施設は昨年4月1日に正式な稼働をしたものである。導入に当たって
は、「ゴミの再資源化を促進する」という市長の方針があった。民間業者の
民設民営を前提とし、「自治体のごみを確保していく」という前提で契約が
されている。こうした点に注目できる。今後の本市のゴミ行政に大いに参
考にできる内容であった。